

令和8年度

事業計画書

学校法人 亜細亜学園

## 令和8年度事業計画

学校法人亜細亜学園は、令和8年度事業計画を以下のとおり策定する。

### 1. 基本方針

令和8年度事業計画は、「第3期5カ年中期行動計画」で掲げた目標の付加価値を高めて達成するとともに、令和9年度に始まる次期中長期計画を策定し、創立100周年に向けた飛躍の準備に取り掛かることを基本方針とする。

また本年度は、法令により第4期認証評価を受審する。本学の教育研究の姿を大学基準協会に正しく説明し、適切な評価を受けるべく、対応していく。

創立85周年を迎える本学園は、建学の使命及び建学の精神に基づき定めた「多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成」をミッションとしている。そのミッションのもと、亜細亜大学の将来像「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」をビジョンとして掲げ、「亜細亜大学中長期計画—新アジア未来マップ—」を策定し、現在は、令和4年度を期初とする「第3期5カ年中期行動計画」を推進している。同計画は、本年度が最終年度で、各施策のゴールを検証し、次期中長期計画へと継承していく。

18歳人口の減少に伴い他大学との競争が激しくなる中、社会のニーズは常に変化しており、これに一步先んじて応え続けていかなければ、本学においても、志願者の大幅な減少や定員未充足という状況に陥ることが予想される。このことを常に意識しながら、本学が重視する3つの力「アジア力/行動力/共創力」を磨き、教育の質を向上させ、選ばれ続ける「楽しい大学」を実現するため、大学改革に果敢に取り組んでいく時である。

以上のことから、本年度は、次期中長期計画に資するため、令和7年度の点検結果に基づく本学のさらなる成長につながる「重点達成項目」及び「対処すべき課題」に取り組み、併せて第3期5カ年中期行動計画に基づく「具体的行動施策」を推進する。

アジア力/行動力/共創力（「亜細亜大学 GUIDEBOOK2026」P.006 より抜粋）

本学が重視するこの3つの力は、今後の社会で不可欠なものばかりです。あらゆる人と交渉・協力するために、グローバルな視野を身につける。自分の信念に沿って積極的にまず行動する。そして、異なる意見も取り入れてより良いアイデアに高める。この3つの力を身につけることで、アジア圏をはじめとして世界で活躍できる人材になれるでしょう。

【アジア力】 文化や言語など、さまざまなアジア地域を体験した学生の力

【行動力】 失敗を恐れず、積極的に行動・挑戦する姿勢

【共創力】 異なる意見も受け入れ、より良い答えをつくり出す力

## 2. 重点達成項目

### (1) 第3期5カ年中長期行動計画の期中開始の新学部学科改編の完遂

#### ①経営学部データサイエンス学科（令和5年度開設）の発展的見直し

第1期生が卒業年次となる完成年度を迎える。これまでの志願者動向を鑑み、経営学部の一つの学科であるという位置づけを明確にするため、教育内容を再検討する。

#### ②社会学部現代社会学科（令和7年度開設）の地域社会と連携した教育の推進

多くのモノやヒトさらにはコトを巻き込み、活発な議論から新たな仕組みを生み出す「プラットフォームとしての社会学」を探求し、地域社会と連携したプロジェクトを進め、学生満足度の高い教育を推進する。

#### ③健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科設置計画の確実な履行

本学初の理系学部として、充実したカリキュラム内容を適切な手順で教育し、手厚い補習教育や実験実習棟建設等により、充実した学修支援体制の確立を目指す。

### (2) 第4期認証評価における「適合認定」

本学の教育研究水準の向上に資するため、公益財団法人大学基準協会による第4期認証評価の評価結果において、「適合認定」を受けることを必達目標とする。

## 3. 対処すべき課題

### (1) 「アジア力」推進体制の構築

次期中長期計画においては、大学間競争に打ち勝つため、「ビジョン／アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」を更に深掘りし、社会から「アジアに関しては亜細亜大学」という信頼と実績を獲得し選ばれ続ける大学として飛躍いたしたい。本年はそのような飛躍のための準備期間と位置づけ、推進体制を構築し、以下の取り組みを強化する。

#### ①アジアに関する情報拠点化

アジアに関する教育の更なる質向上を図るため、教育・研究・学生支援・社会貢献等の各側面において、情報を集約・活用できる体制を構築する。

#### ②アジアに関する情報発信

学内外のステークホルダーに対し、集約したアジア情報を強力に発信し、亜細亜大学のビジョンの浸透を図るとともに、志願者の増加と、社会からの信頼獲得を実現する。

#### ③アジア及び国際社会で活躍できる人材育成

学生が、これからの世界を牽引するアジアについて理解し、国際社会で活躍する人材として卒業後に社会から期待される人材に育っていくために、アジア圏での様々なチャレンジを促進する。

### (2) 業務改革の推進と組織連携体制の強化

次期中長期計画期間においては、AI に代表される技術革新、人口減少に伴う人材面の課題等、社会の在り方が大きく変化することを見据え、その上で社会から選ばれ続ける大学として存続し続けなければならない。本年はこれを踏まえ、持続可能な業務推進体制の

構築を目指し、以下の取り組みを強化する。

- ① スマートフォンの社会基盤化が進む社会に対応する学生サービスの検証と具体化
- ② 効率的な業務遂行の更なる推進のための部署間連携体制の強化、定型的業務の委託化ならびに業務の電子化の推進（AI 導入を含む）
- ③ これらを踏まえた中期的な要員計画の策定（事務職員の年齢構成の偏り是正を含む）

#### 4. 第3期5カ年中期行動計画に基づく具体的行動施策

##### （1）国際化施策

###### 【1-1】 実留学体験者数の増加と多様な国際交流機会の提供

- ① 学生の語学力や成長を促すプログラム内容の策定と事前・事後研修の実施
- ② 実留学体験者数 300 名（うちアジア地域への留学生 150 名）の継続的確保
- ③ SNS や対面型説明会等を活用した積極的かつ効果的な広報活動の展開
- ④ AUGP オーストラリアの新規派遣先であるウーロンゴン大学との連携強化
- ⑤ 留学の動機付けを図るため、外部団体と連携した2週間程度の短期プログラムの導入検討

###### 【1-2】 アジア地域を体験する学生数の増加

- ① 「ASIAN FESTA」によるアジア地域の文化に触れる機会の提供
- ② 「ASIAN FESTA」を通じた日本人学生と留学生の交流促進
- ③ アジア学長フォーラムのオンライン共修プログラム「アジア・アライアンス大学」への参画
- ④ AUASP、AUKP、AUGP 等のアジア地域留学体験報告会の実施
- ⑤ Instagram を活用したアジア体験の積極的な広報展開

###### 【1-3】 アジア地域からの外国人留学生数の増加

- ① 留学生別科の認定日本語教育機関化に向けた体制整備
- ② ASEAN 奨学生の志願者数増加策としてベトナムにおける広報展開の強化
- ③ 留学生増加を目的とした入試制度改革の検討及び具体的提案

###### 【1-4】 外国人留学生の活躍を広く学内外に周知

- ① ASEAN 奨学金制度創設 10 周年記念事業の実施
- ② 東急グループとの連携強化によるグループ企業への就職者数の増加
- ③ 寄付企業・支援企業における採用試験受験実績の拡大
- ④ ASEAN 諸国奨学生卒業生同窓会の開催による卒業生ネットワークの強化
- ⑤ 広報展開による ASEAN 奨学金制度への理解促進

## (2) 教育・研究活動施策

### 【2-1】 「面白い」授業や「役に立つ」授業の促進

- ① ティーチングアワードによる教員表彰の継続実施及び検証
- ② ティーチングアワード受賞教員（好事例）の広報展開促進
- ③ 『広報アジア』による各学科の授業紹介
- ④ JR 中央線まど上広告「面白くなければ学問じゃない」掲出による研究活動の広報
- ⑤ 社会学部学生の「社会現象可視化スキル」強化事業

### 【2-2】 学修の到達点及び学修特性を確認できる仕組みの構築

- ① 『アセスメント報告書（第2版）』の刊行
- ② アセスメントプランに基づく各指標の分析・検証による学生の学修成果公表

### 【2-3】 学生が社会で求められる能力や技法を修得できるよう指導強化

- ① 本学の定める基礎知識として示した「21 世紀亜細亜ベーシックス」継続実施と検証（履修者数及び成績分布等）
- ② 外国人留学生を含めた学生の共創力・行動力を高め、キャリア形成を促すインターンシップ参加の支援
- ③ エアライン・サービス業界採用強化のための課外講座の開講

### 【2-4】 「対面」と「オンライン」の特質を生かせるベストミックス授業体制の構築

- ① 学生の受講機会を確保するため「対面」と「オンライン」ベストミックス授業体制の継続実施と検証（履修者数及び成績分布等）

### 【2-5】 学生満足度向上につながる全学 DX 基礎対応の推進

- ① 教室の稼働率に鑑みた教室不足解消のための施設計画策定
- ② 本学オリジナル学生向けスマートフォンアプリ・登校管理システムの導入検討
- ③ 保護者ポータルサービスとの連携による学生登校確認情報の提供検討
- ④ 図書館リニューアル改修第3期（5階～7階フロア）の工事計画

### 【2-6】 学生がデータサイエンス分野の基礎知識を修得できる仕組みの定着

- ① データサイエンス学科設置計画履行状況等調査の実施
- ② データサイエンス学科1期生の4年間における学修成果と教育効果の検証

### 【2-7】 研究活動の外部公表促進と内部共有充実

- ① 科研費レビュー体制の効果検証（獲得研修等）及び改善・継続実施
- ② 学内研究助成制度を利用した研究活動の促進及び研究成果の広報促進

(3) 学修環境・支援施策

**【3-1】 卒業年次生アンケートの回収率引き上げと学修環境の改善**

- ① 『アセスメント報告書（第2版）』の刊行における各部局への改善案等の提示
- ② 健康スポーツ科学部の数理補完教育の実施

**【3-2】 快適で利便性が高い魅力あふれるキャンパスの構築と、迅速で親切なスタッフ対応の実行**

- ① 国際交流ラウンジのリニューアル
- ② 既設教室棟等の長寿命化に向けた点検・整備
- ③ 入国管理局による在留資格更新手続き厳格化を踏まえた留学生への学修指導
- ④ 学食の長期休暇中の営業再開

**【3-3】 学内学生団体（部・サークル）活動の学生が充実した学生生活を送れる支援**

- ① 学友会財務局に対する公認会計士による監査実施
- ② 洋上大学をはじめとした学生団体主催企画の支援

(4) 社会連携施策

**【4-1】 学生が企業（社会人）及び地域社会と交流する機会を増やす**

- ① 「アジア力」の涵養とプレゼン能力を顕彰する「ASIA ACTION AWARDS」の開催
- ② 地域交流活動の活性化
- ③ ボランティア参加学生数の前年度からの増加

**【4-2】 アジアへの理解と関心を深める高校生向け企画の展開**

- ① 高校生アジアフォトコンテストの認知拡大
- ② 高校生アジアフォトコンテスト過去入賞作品の学外展示会開催
- ③ アジア関連テーマの模擬講義や授業体験実施による認知拡大

**【4-3】 卒業生と在校生の交流機会拡充**

- ① 青々会(OB・OG組織)との連携スキーム(共有データの利活用等を含む)構築
- ② 専門業者によるWebアクセス解析に基づく在学生の活躍情報・イベント情報を、大学公式サイトや大学公式SNSで掲出

**【4-4】 研究成果を地域及び社会貢献に結びつける**

- ① 公益財団法人大学基準協会による第4期認証評価の受審
- ② 武蔵野地域5大学事業の継続的实施
- ③ アジア研究所の情報発信体制の強化
- ④ 社会学部シンポジウムの継続実施

(5) 大学運営施策

**【5-1】 認知度向上と志願者の獲得**

- ① 令和9年度を期首とする次期中長期計画の検討及び策定
- ② 近年開設3学部学科（経営学部データサイエンス学科、社会学部現代社会学科、健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科）の認知拡大
- ③ 新たなブランディング構築における戦略策定に向けた体制を整備
- ④ 「アジア力」の検討状況に即した各種媒体による情報発信
- ⑤ 次期中期財政計画づくりの基礎データ（学費、人件費、設備投資等）整備
- ⑥ 職員による政策的な高校訪問の実施及び高大連携の強化
- ⑦ データサイエンス学科の現状を踏まえた入試施策の見直し

**【5-2】 本学の持続的発展を支えるガバナンス体制の構築**

- ① 理事による職務執行の法令・寄附行為への適合性及び業務の適正性確保
- ② さらなる生産性の向上を目的として、組織横断的に業務を推進するための事務組織体制を整備
- ③ 金利上昇局面を踏まえた資産運用収入の拡大
- ④ 『重大危機発生時の広報マニュアル』の整備
- ⑤ 「ガバナンス・コード遵守状況」の大学公式サイト公開

**【5-3】 DX時代に対応可能な人材育成に資するICT教育環境整備及び電子化による大学事務の業務改善・効率化の推進**

- ① 業務の電子化による部署間の情報共有や連携・協力を全学的に推進
- ② 次世代キャンパスネットワークのリプレイス
- ③ 定型的な学内問合せに対する自動応答システムの導入

**【5-4】 教育・研究活動を安定的に支える財政基盤の構築**

- ① 経常収支差額比率5.0%以上を達成するための次期中期財政計画づくりの基礎データ固め
- ② 重要施策と財政上の数値目標達成を両立した次期財政計画（令和9～13年度）の策定

**【5-5】 大学を取り巻く環境変化に対応できる事務職員の人材育成**

- ① 目標達成に必要な能力・専門的スキルを習得した若手・中堅職員の育成
- ② 変革時代に対応した部下指導・人材育成の役割を果たせるマネジメント職の養成
- ③ 内部統制システムの強化推進に向けて、政策を策定・管理する人材の育成と学園全体の意識醸成
- ④ 事務職員の年齢構成の偏りを是正し、業務遂行に必要な適正人員を確保するた

め、事務職員の中期要員計画の策定

**【5-6】 武蔵野キャンパス未整備地区の将来開発に向けたキャンパスマスタープラン及び中期設備投資計画の策定**

- ① 実験実習棟の令和9年2月竣工
- ② 体育館建替計画の検討開始
- ③ 大学公式サイトなどの媒体を通じた健康スポーツ科学部実験実習棟の広報

**【5-7】 SDGs 実現に向けた取り組みの推進と学内外への発信**

- ① 各施設のLED化改修工事
- ② 省エネ化（電気・ガス使用量削減）に向けた運用面の各種取り組み
- ③ 大学公式サイトなどの媒体を通じたSDGsに関する取り組みの広報展開

## 5. 人事

令和8年度の専任職員数は以下のとおりである。

属性等	学部等	人数	合計人数
(特任及び 一 号 客 員 含 む) 教育職員	経営学部	47名	198名
	経済学部	25名	
	法学部	28名	
	国際関係学部	32名	
	都市創造学部	1名	
	社会学部	16名	
	健康スポーツ科学部	15名	
	アジア研究所	5名	
	英語教育センター	29名	
事務職員		133名	
総合計		331名	

(令和8年4月1日時点)

## 6. 財務

### (1) 令和8年度事業活動収支予算

経常収支差額を225百万円の収入超過(経常収支差額比率:2.29%)とする予算を編成し、将来的に経常収支差額比率5%以上を安定的に確保できる財政基盤の構築を目指す。

・令和8年度事業活動収支予算収支概要

経常収入: 9,828百万円

経常支出: 9,603百万円

### (2) 令和8年度資金収支予算

翌年度繰越支払資金を3,841百万円とする予算を編成し、健康スポーツ科学部実験実習棟の建設や将来的なキャンパス施設の建替等に備えた資金計画を推進する。

・令和8年度資金収支予算収支概要

当年度収入: 9,951百万円

当年度支出: 10,728百万円

## 7. 施設・設備

令和8年度の施設・設備関係予算は、合計2,074百万円である。

健康スポーツ科学部開設に関連した建物・設備の整備、経年劣化が進む設備の更新計画に加え、能動的な学修を促進する教育環境の整備と充実化を継続的に進める。主な事業は以下のとおり。

### (1) 健康スポーツ科学部実験実習棟整備工事

内 容	健康スポーツ科学部実験実習棟建設について、令和9年2月竣工に向け、整備工事を実施する。(総事業費1,639百万円)
事業費	1,179百万円(建設費:1,046百万円、什器購入費:133百万円)
実施期間	令和8年4月～令和9年2月

### (2) 図書館リニューアル改修工事(第3期)

内 容	館内5階から7階を改修し、利用者フロアの整備工事を実施する。
事業費	80百万円
実施期間	令和8年6月～令和9年3月

### (3) トイレ改修工事(旧2号館・8号館)

内 容	旧2号館、8号館のトイレについて、アメニティ向上に伴い改修工事を実施する。
事業費	195百万円
実施期間	令和8年4月～令和8年6月

### (4) 学内LED化工事(3号館・太田耕造記念館・ASIA PLAZA 他)

内 容	法令対応と消費電力削減を図るため、太田耕造記念館、3号館講堂演出照明等のLED化工事を実施する。
事業費	100百万円
実施期間	令和8年4月～令和9年3月

### (5) 外壁改修工事・屋上防水工事(5号館・7号館・カウンセリングセンター・第二アジア会館)

内 容	前回改修から15年以上が経過し経年劣化が進んでいるため、改修工事を実施する。
事業費	269百万円
実施期間	令和8年8月～令和9年3月

以 上

## 亜細亜大学中長期計画 –新・アジア未来マップ–

### 第3期5カ年中期行動計画

#### –アジア（亜細亜）からグローバルへ–

## I ミッション

建学の精神 「自助協力」

多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成

## II ビジョン –亜細亜大学の将来像

「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」

### ○アジア交流の拠点となる

国際交流・国際連携を強化し、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる高い志と行動力にあふれた人材を育成し、アジア研究・交流の拠点大学となります。

### ○すべての学生が充実感・達成感を得られる大学となる

知的関心を呼び起こす双方向的授業を軸に、学修者本位の教育体制を構築し、あわせて 多彩な課外活動の機会、快適なキャンパス空間を提供し、すべての学生が成長と満足を実感できる大学となります。

### ○社会との連携を拡充し、社会貢献を更に推進する

大学の有する資源、研究成果を社会に還元し、また生涯学習及び地域活性化を促進し、あわせて社会貢献活動を通じて、学生の問題解決力、行動力を育てます。

## III 第3期5カ年中期行動計画のスローガン・基本方針

第3期5カ年中期行動計画は、with コロナ、after コロナの状況に適切に対処しながら、Society 5.0、DX 等の急速な社会的変化に対応した教育を提供し、本学の強みである国際交流・連携の拡充により有能な国際人を多数輩出し、18歳人口の長期的減少下においても選ばれる大学となる施策を確実に実行するため、以下のとおりスローガンと7つの基本方針を定め、推進します。

### 【スローガン】

楽しい大学・面白授業・アジアと共に ～選びたくなる 亜細亜大学～

### 【基本方針】

- (1) アジア学修の浸透及び国際交流の持続展開(実留学・オンライン交流の両面体制の堅持)
- (2) 社会の変化に対応した新しい学科の開設による教育の拡充
- (3) 主体的学修力の育成強化
- (4) 楽しい大学・面白授業の構築
- (5) 社会連携活動の拡充
- (6) 広報活動の強化
- (7) ガバナンス体制の構築